あきたかた男女共同参画だより

日本では、家庭での育児・介護といった無償労働の9割を女性が担っているという実態があり、女性に大きな負担がかかっています。男性の積極的な家事参画について考えてみましょう。

2019年 秋（9月）号
NO.5　人権多文化共生推進課

安芸高田市第２次男女共同参画プラン（H29～R3 年度）では、基本目標のひとつとして「家族みんなで協力し合う家庭づくり」を掲げています。

目指す姿

○ ワークライフバランスにより男性が家庭に参画する時間が確保されています。

○ 男性が性別役割分担意識を見直し、家事や育児・介護に積極的に関わることで、女性の負担が軽減しています。

○ 男性が子育てなど家庭生活に参画することで、実りある充実した時間が増え、自らの暮らしの質を積極的に高めるため、更に関わろうとしています。

○ 子どもが親の姿をみたり手伝いなどを通して、男性も女性も協力して家事など家庭生活を送ることが当然であることを認識しています。

現状と課題

３年前に本市が実施したアンケートでは、性別役割分担意識にとらわれない人が徐々に増えていますが、依然、女性に家事や育児、介護の負担が大きくかかっている現状がある結果となっています。

男性が家事や育児、介護にほとんど参画していない状況が、女性をこれまでどおり性別役割に縛り続け、社会全般の性差別の潜在意識を再生産していくことが懸念されています。

実際に「主夫」として家事・育児に取り組んでいる山田　亮さん（家事ジャーナリスト）を講師にお招きし、家事・育児を経験して初めて分かった大切なことのお話しを伺いました。

順風満帆のはずが育児ノイローゼに

講師の山田さんは大学教授の妻・和子さんを支え「主夫」をしながら働いていました。娘の誕生後、しばらくは育児パパを無難にこなしていましたが、１歳半から２歳半に掛けて育児ノイローゼを経験されました。

保育所を利用できると思っていた１歳頃、抽選が外れて利用できない、子供はハイハイをし始めてじっとしていなくなる、「いやーー」と言って言うことを聞かなくなる。福祉士の資格を取る過程で虐待する親を散々見てきて、あんな親には絶対ならん、怒鳴らない、手を挙げないと心に決めていたのに、自分の娘に怒りの感情が湧き、その怒りを鎮めることができない。必死の思いで感情を押し殺す日々が続きました。ある日、娘と散歩していたら涙が止まらなくなることがあり、心療内科を受診すると「自律神経失調症」との診断がくだりました。（裏面へ続く）

隣どうしで片方が「自分が周りの人にどういう人として記憶されたいか」を話し、片方がその内容を褒めるワークショップもありました。褒めるために聴くので、一生懸命相手の言うことを聴くトレーニングになります。

病院の先生からはお薬ではなく、夫婦で話し合って原因を見つけてくださいと言われました。久しぶりに妻の和子さんとゆっくりしゃべる機会を得て、子どもが生まれてから圧倒的にコミュニケーション不足になっていることに気づきます。

共感してくれる言葉を聞いて

そして、出産して１年半後にやっと和子さんが１週間の休暇を取りました。最初の２日間は和子さん一人で育児しました。３ 日目の朝、目にクマのできた和子さんは、「もうあかんわ。朝から晩まで子どもと一緒だと、こんなたいへんだとは知らんかった。」と語りました。３日目から７日目まで一緒に子育て。一日中朝から晩まで久しぶりに３人で過ごしました。時間と経験を共有します。すると、和子さんが言うには、「一人で子育てするのは、昼間ずっと一緒に過ごすのって、こんなにたいへんだったんか。ほんま、あんた１か月半の頃から今日までようやったな。たいへんやったやろ。」共感してくれる言葉を聞いて、そのとき初めてそれまで溜まっていた、しんどかった思いが解きほぐされていくような気がしたそうです。

家事は現代社会に残された貴重な協働チャンス

子育て中は、しんどいこともありますが、歩けるようになった，走れるようになった，自転車に乗れるようになったなど色々、成長のいいこともたくさんあります。そういうことを共感できていないのに、しんどいことを共感できない。時間や経験を共有すること。情報共有が大事。一番手っ取り早いのは協働。男女共同参画。「よう考えたら今の時代、家事くらいしか夫婦で協働することってないんちゃうか。」家事は現代社会に残された貴重な協働チャンスです。大事なのはコミュニケーション・対話です。（講演内容より）

男性の積極的な家事参画が、女性が社会で働きやすい環境を後押しします。日本の歴史の中で「男は仕事」「女は家庭」の社会的意識がつくられ、女性が男性に比べ社会的地位の低い、いわゆる「男社会」が形作られてきました。まずは、家庭内での「家事」という無償労働のあり方を見直すことで、男女共同参画のやさしい社会につなげていきませんか。

子育てママの「働きたい」を応援 わーくわくママサポート出張相談会を開催します

１１月１０日（日）
向原生涯学習センターみらい

女性のライフサイクルに応じた就職を支援する一環として、広島県と共催し「女性の就職総合支援事業」わーくわくママサポートコーナー出張相談会を 11 月 10 日（日）13 時～16 時、向原生涯学習センターみらいにおいて開催します。

「働きたいけど、何から始めたらいいのか分からない」「子育てしながら仕事ができるか不安」「ひとりで就職活動してるけど、なかなかうまくいかない」・・・など、不安やお悩みをお持ちの方のご利用をお待ちしています。キャリアコンサルタントが懇切・丁寧に対応します。当日は託児も承ります

相談を希望される方は、わーくわくママサポートコーナーひろしま℡０８２－５４２－０２２２までお申し込み下さい。

皆さまからのご意見や情報をお待ちしています。
＜人権多文化共生推進課＞℡ ４２－５６３０ fax ４７－１２０６ e-mail :zinkentabunka@city.akitakata.jp